



交通事故を防止するためには、路上で出会うさまざまな危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を高めるための題材を提供します。今回は四輪車のドライバーに、夕暮れ時に対向車とすれ違う時の危険について考えてもらうためのKYTです。

活用方法

1. 少人数のグループをつくります。
2. 「交通場面のイラスト」を見せながら、意見を出し合います。
3. その後、「解答・解説※」を参考にして、どんなことに気をつけて運転すれば良いか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト (カラー・A4版)」は下記SJホームページでご覧いただけます。またPDFファイルもダウンロード (無料) できます。

ホンダ SJ 検索

- 【使用上の注意】
- 営利目的での利用はおやめください。
 - 内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
 - その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。

本田技研工業 (株) 安全運転普及本部
TEL: 03(5412)1736 E-mail: sj-mail@spirit.honda.co.jp

© 本田技研工業 (株)

あなたは夕方、生活道路を走行しています。片側1車線の道路で、対向車とすれ違うところです。

安全に通過するには、どのようなことを予測する必要がありますか？

Q1

平成27年の交通事故死者数を年齢層別・状態別にみると、高齢者 (65歳以上) では歩行中が最も多くなっています。このうち、自動車 (乗用+貨物車) と衝突して死亡した高齢歩行者は993人で、これを事故類型別にみると横断歩道以外の場所を横断していた割合は何%でしょうか？

- ①約25% ②約50% ③約75%

Q2

単路および交差点付近で自動車と衝突して死亡した高齢歩行者を道路横断時の進行方向別にみると、次のどちらのケースが多いでしょうか？

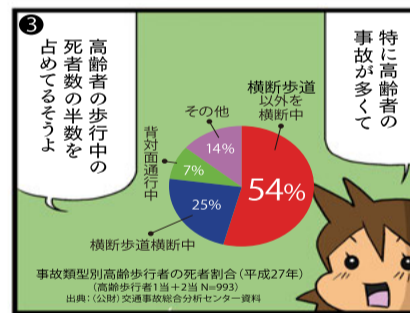
- ①道路横断後半に左方向から走行してくる自動車と衝突
- ②道路横断前半に右方向から走行してくる自動車と衝突

Q3

横断歩道以外の場所を横断して死亡した高齢歩行者側の違反として最も多い違反は次のうちどれでしょうか？

- ①斜め横断
- ②走行車両の直前・直後の横断
- ③駐車車両の直前・直後の横断

※「解答」は8面下「解説」は下記SJホームページでご覧いただけます。
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/>



漫画: 塚本ケース

SJ クイズ ?

© 本田技研工業 (株)

指導者ファイル

このコーナーでは、地域で活躍する交通安全教育に携わる指導者の方々を紹介していきます。

35

(一財) 長野県交通安全教育支援センター・指導員の皆さん

写真左から、三澤陽子さん、竹内滋美さん、田邊奈麻美さん

相手を思いやる気持ちの大切さを伝え、事故防止につなげる

(一財) 長野県交通安全教育支援センターは県民の交通安全意識の普及高揚を図ることを目的に、県内を4方面 (北信、東信、南信、中信) に分け、幼児や小・中学生、高齢者へ無償で出前型交通安全教育活動を推進している。同センターには現在22名の指導員がおり、年間1000回以上の交通安全教室を開催。竹内さん、田邊さん、三澤さんは県庁所在地がある長野市を含む北信方面を担当している。

主任指導員の竹内さんは「思いやり」をテーマに指導しているという。「相手の立場を考えると気持ちがあれば、ひと呼吸おいてから考えて行動ができるはず。相手を思いやる瞬間が余裕を生み出し、交通事故を防ぐことにつながります。これは安全に限らず、普段の生活にも活かせることだと考えています」。



三澤さんは「交通事故の事例やその原因をわかりやすく伝えることで、交通安全を他人ごとではなく、自分のこととして考えてもらえるように心がけています」と語る。

また、子どもを対象にした交通安全教室においては「『行ってきます!』と家を出て『ただいま!』と無事に帰ることが、家族にとってとても大切であることを理解してもらえるように指導しています」と、田邊さんは話す。

子どもから高齢者まで、「思いやりの心を持つ」という意識を浸透させることをめざし、指導員の皆さんは日々の活動に取り組んでいる。

指導者の皆さんの活動を動画で紹介

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/area/movie/>

高齢者向けの交通安全教室

竹内さんと、高齢者に扮した三澤さんによる寸劇を交えながら、高齢歩行者が事故に遭った事例を紹介



イラストを動かしながら、ライト (ロービーム) には照射範囲があり、その外側にいる時はドライバーに認識されていないことを説明

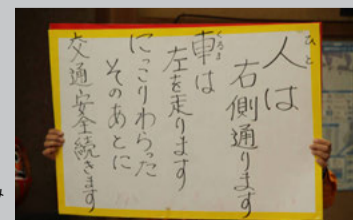


歩行者は右側通行になるので、反射材は左手と左足に着用するようにアドバイス。道路横断時に左から来るクルマに対するアピールにもなる

交通安全教室の最後は高齢者に馴染みのある鉄道唱歌の替え歌を全員で合唱



交通安全教室の冒頭では簡単な手遊びで高齢者にリラックスしてもらう



昨年度、同センターは独自でオリジナルの交通安全教育用ビデオを制作。ドローンによる上空からの撮影で、運転席から見えない死角などをイメージしやすいように工夫している

